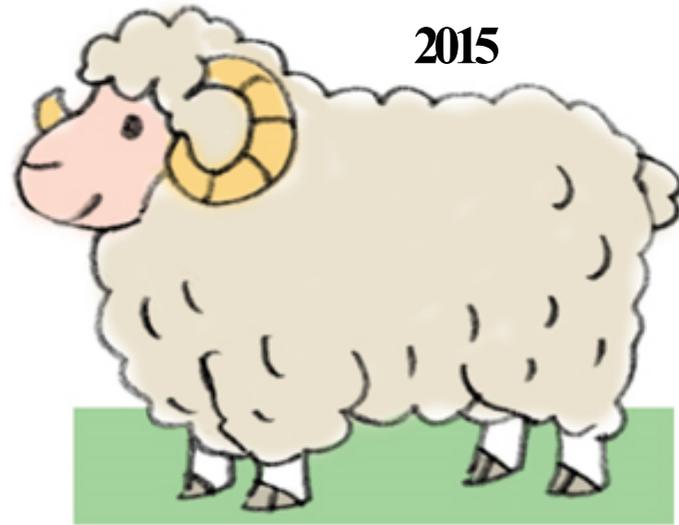


インターネット俳誌／SEIGETU

# 清月

3 中の出句 17 名 延べ 736 句

2015



第 176 号 平成 27 年 3 月

地域により歳時記と囀目では時季が異なることがある事について

ゆたか

長い日本列島では「行事・名月などの天文」以外の俳句事象は、南端と北端では時季が異なるものが多々あります。

地方の俳句会で作成される歳時記は、その地方の四季の事象が的確に分類されますが、市販の歳時記は、東京都市部を基準にしているものが多く、沖縄の句会や北海道の句会では、事象が時季に合わなくて使いづらいことがあるのでは無いかと思います。

また当会の清月歳時記は、外国からの閲覧があります。南半球に住む人にとっては、季節がまったく逆である事から使いづらいものと思います。

俳句は、囀目即興詩です。現に目にした事象は、歳時記の時季分類にかかわらずお詠みいだきたいものです。

また、発表に当たっては、当句会のようなインターネットで行われるデイリー句会や吟行句会では囀目句であるかぎり歳時記の時季分類に関わらず出句して差し支え無いとされます。

全国を対象とする句会や多くの俳誌では、作者名に居住都道府県名や市名を付して掲載され、当季雑詠では地域により歳時記の当季とのずれている句も容認されたりします。

当清月句会のデイリー出句作品についても作者のお住まいの地域を勘案のうえ、鑑賞いただけましたら、作者の立ち位置や背景がより鮮明となり句意がよく伝わってくるのではないかと思います。

以上

目次

近詠	ゆたか	2
雑詠選	ゆたか	3
寸感	ゆたか	8
互選集計結果報告	高点句	10
	高点者	11

互選一〇句の披講

幹夫	允孝	11
よし子	睦夫	12
恵山	美琴	13
	省司	
	しゆじ	

近詠

野田ゆたか

子の代に御座譲られし雛かな  
 船波の寄すたび水漬き芦の角  
 判じものめけるの字の蜷の道  
 鮎子の初の浜値の安からず  
 うかつにも踏み躪りたる名草の芽

雑詠

(大字は秀句)

ゆたか選

躑躅燃ゆ開拓村の無縁墓 静岡 渡邊春生  
燕来る砲門今も海を向き 同  
風光る九十歳の畑仕事 同  
春風に押されて四脚門に入る 同  
桐咲いて素焼きの壺に残る熱 同  
北窓を開けて紫煙を野に放つ 岡山 橋本幹夫  
北限の猿の憩へる春田かな 同  
飯蛸の原形留め島の膳 同  
モノクロの妣に手土産入彼岸 同  
姑が陣頭指揮の大掃除 同

どれもこれも明るき絵柄種袋 岐阜 石崎そうびん  
春寒し血の池泳ぐ亡者の絵 同  
県境の村の廃れて雪解川 同  
大試験終えて車窓の伊吹山 同  
ゆるゆると夕陽に向かふ蜩舟 同  
たつぷりと水を注ぎて苗木植う 千葉 清水恵山  
幾たびも列車止めたる比良八荒 同  
小さな掌に四葉のクローバ見せに来る 同  
伝説の河童の沼や葦の角 同  
お中日三代揃ひ賑やかにかに 同  
鯉群れて黄金しろがねみな臚 吹田 池下よし子  
啓蟄や亀動かざる心字池 同  
うるうると春満月のいま天心 同

ケチャップのハートマークやあたたかし 吹田 池下よし子  
 あたたかや古りし俳画の自画自賛 同  
**春蘭や声掛合ひて丸木橋** 大阪 木村宏一  
 春の闇瀬音たよりの峡の道 同  
 啓蟄や思ひはいまだ胸のうち 同  
 春の野に久しき子等の声奔る 同  
 霾や車にうすきハートの絵 同  
**復唱の操舵号令風光** 千葉 田村公平  
 啓蟄のグラント均す野球の子 同  
 嬰兒の伝い歩きに春の風 同  
 麦踏んで畝のかなたの夕日かな 同  
 壁薄き松下村塾楓の芽 同  
 どなたから供養の花や入彼岸 鳥取 瀬尾睦夫

遅しく回る水車や春の水鳥取 瀬尾睦夫  
 また一つ歳を増やして雛納む 同  
 スカートの丈を戻して卒業す 同  
 一刻はしきりに降りて春の雪 同  
 引く波の渚に拾ふさくら貝 三重 後藤允孝  
 父のごとときには怒る春の海 同  
 暖かや恋路が浜の椰子の歌碑 同  
 春潮の引きて稚児蟹彷徨へる 同  
 春暁や船の舳先は南氷洋 同  
 陶器雛それぞれ旅の想ひあり 三重 山口美琴  
 忘れし梅の木二本人を恋ふ 同  
 畳拭く総仕上げなる大掃除 同  
 雨上り土の香広げ畑を打つ 同

朝夕はまだ必要な春コート  
 三重 山口美琴  
 そこかしこ沈丁香る住宅地  
 千葉 筒井省司  
 クロツカス妻に花名を教はりぬ  
 同  
 合格に照れたる笑みの孫来る  
 同  
 雨雫溜めてゆらゆら雪柳  
 同  
 三月や学帽投げの懐かしき  
 同  
 早蕨の天麩羅混じる夕餉かな  
 愛知 石川順一  
 風車赤紫が回り出す  
 同  
 なずな咲く田の畔風が吹き渡る  
 同  
 玉筋魚を箸で掴めば海臭ふ  
 同  
 春雪の水と成り行く速さかな  
 同  
 春の川渡る浅瀬の石伝ひ  
 大阪 森戸しゅじ  
 卒業やよどまず校歌うたひ切る  
 同

をりからの春の大雨溪荒し  
 大阪 森戸しゅじ  
 遠浅に腰まで浸かり浅蜷搔く  
 愛知 駒田暉風  
 紅椿一花寂しく落ちにけり  
 山梨 志村万香

添削  
 桜散る教え子達の今いかに  
 神奈川 梅津弘子

寸感

ゆたか

躑躅燃ゆ開拓村の無縁墓 春生  
色毎に燃え継ぐように咲き継ぐ躑躅の旧  
開拓村にある縁故者が絶えてしまった墓碑。  
無縁仏者の活動の往事を偲ぶとき、咲き  
継ぐ艶やかな躑躅にも一抹の淋しさを覚え  
る。

現在の村の様子が上手く詠まれている。  
どれもこれも明るき絵柄種袋 そうびん  
俳句で種袋と詠めば春蒔きの種物をさし  
ます。絵柄付ですので市販の種でしょう。  
袋の絵柄の様に育つことを願って種を蒔  
かれている作者の様子が見えてきます。

種袋の本質の一切が詠み込まれている。  
たつぷりと水を注ぎて苗木植う 恵山  
植林・果実の木・庭木・街路樹・記念樹  
などとして植えられる苗木。  
元気に育てよと願いつつ苗木を優しく取  
り扱われている作者の様子が微笑ましい。  
苗への愛情が心地よく伝わってきます。

鯉群れて黄金しろがねみな臙 よし子  
塵や気流に含む水滴などで景がぼんやり  
することを昼は霞といい夜は臙といいます。  
夜気に金色系の鯉、銀(白)色系の鯉が臙  
に見える様子に感動した作者の様子が窺え  
ます。

夜の鯉の景が上手く捉えられている。  
春蘭や声掛合ひて丸木橋 宏一  
春蘭は自生するが庭や鉢にも植えられる。  
蕾を祝膳の汁種に用いることもある。  
同行者らと行く山中の道々、春蘭の発見  
など自然の景を楽しんでいる様子が窺えます。  
山歩きの景が見事に詠まれています。

復唱の操舵号令風光る 公平  
船長又は航海士による号令、号令の動令  
を操舵の前後に復唱する操舵手。  
安全航行のために求められる船舶従事者  
の活動の一コマを垣間見る思いがします。  
「風光る」の季題がよく効いている。

互選一〇句の集計結果 互選者九人

高点句

- 四点 春の閨瀬音たよりの峡の道 木村宏一
- 四点 引く波の渚に拾ふさくら貝 後藤孝光
- 三点 春の川渡る浅瀬の石伝ひ 森戸しゅじ
- 三点 卒業やよどまず校歌うたひ切る 同
- 三点 県境の村の廃れて雪解川 石崎そうびん
- 三点 北窓を開けて紫煙を野に放つ 橋本幹夫
- 三点 うるうると春満月のいま天心 池下よし子
- 三点 暖かや心の扉開けてみる 山口美琴
- 三点 麦踏んで畝のあなたの夕日かな 田村公平
- 三点 燕来る砲門今も海を向き 渡邊春生
- 三点 春泥を跳ぶ新しきスニーカー 瀬尾睦夫

高点者

九点 渡邊 春生  
八点 木村 宏一  
八点 山口 美琴  
八点 田村 公平  
八点 瀬尾 睦夫

互選一〇句

橋本幹夫選

春の野や行く先々に鳥の声 清水恵山  
春の川渡る浅瀬の石伝ひ 森戸しゆじ  
老いを打つ足の痛みや寒戻る 木村宏一  
小櫃堰水面を渡る初音かな 筒井省司  
暖かや恋路が浜の椰子の歌碑 後藤允孝  
暖かや心の扉開けてみる 山口美琴  
いかなごや路地に醬の匂ひ立つ 池下よし子  
花の雨相合傘の透き通る 渡邊春生  
アネモネや眠たき音に鳴るビオラ 瀬尾睦夫  
薄墨の桜ゆつくり蕾もつ 志村万香  
後藤允孝選

互選一〇句

後藤允孝選

卒業やよどまず校歌うたひ切る 森戸しゆじ  
手まねきも風のリズムや雪柳 木村宏一  
北限の猿の想へる春田かな 橋本幹夫  
うるうると春満月のいま天心 池下よし子  
草餅や母の手作り香の遠き 山口美琴  
豊作の音の聞ゆる種袋 清水恵山  
純白の辛夷傷めて風去りぬ 筒井省司  
もの芽は花咲く前の力瘤 田村公平  
風光る九十歳の畑仕事 渡辺春生  
また一つ歳を増やして雛納 瀬尾睦夫

互選一〇句

池下よし子選

春の川渡る浅瀬の石伝ひ 森戸しゆじ  
老いを打つ足の痛みや寒戻る 木村宏一  
湯の宿の雪解傘に目覚めをり 石崎そうびん  
北窓を開けて紫煙を野に放つ 橋本幹夫  
暖かや心の扉開けてみる 山口美琴  
たつぷりと水を注ぎて苗木植う 清水恵山  
復唱の操舵号令風光る 田村公平  
燕来る砲門今も海を向き 渡邊春生  
引く波の渚に拾ふさくら貝 後藤孝光  
どなたから供養の花や入彼岸 瀬尾睦夫  
後藤孝光選

互選一〇句

瀬尾睦夫選

卒業やよどまず校歌うたひ切る 森戸しゆじ  
泉境の村の廃れて雪解川 そうびん  
北窓を開けて紫煙を野に放つ 橋本幹夫  
幾たびも列車止めたる比良八荒 清水恵山  
クロッカス妻に花名を教はりぬ 筒井省司  
啓蟄のグラント均す野球の子 田村公平  
風光る九十歳の畑仕事 渡邊春生  
父のごとくときには怒る春の海 後藤允孝  
卒業子希望大きく寮に入る 山口美琴  
春の闇瀬音たよりの峡の道 木村宏一

互選一〇句

筒井省司選

はらわたの苦味の旨き目刺しかな 清水恵山  
春泥を跳ぶ新しきスニーカー 瀬尾睦夫  
引く波の渚に拾ふさくら貝 後藤充孝  
春雪やパウシヨベルの駆動音 石崎そうびん  
垂直に挙げて卒業証書受く 橋本幹夫  
啓蟄や焼野原より七十年 渡邊春生  
麦踏んで畝のかなたの夕日かな 田村公平  
行進のバトンガールや風光る 池下よし子  
桜咲き旅を誘ひしパンフかな 山口美琴  
啓蟄や思ひははまだ胸のうち 木村宏一  
森戸しゆじ選

互選一〇句

森戸しゆじ選

春の闇瀬音たよりの峡の道 木村宏一  
どれもこれも明るき絵柄種袋 石崎そうびん  
紅椿一花寂しく落ちにけり 志村万香  
うるうると春満月のいま天心 池下よし子  
陶器雛それぞれ旅の想ひあり 山口美琴  
復唱の操舵号令風光る 田村公平  
躑躅燃ゆ開拓村の無縁墓 渡邊春生  
燕来る砲門今も海を向き 渡邊春生  
どなたから供養の花や入彼岸 瀬尾睦夫  
そこかしこ沈丁香る住宅地 筒井省司

互選一〇句

清水恵山選

奔流の音のなかなる雪解村 石崎そうびん  
 春の闇瀬音たよりの峡の道 木村宏一  
 幼子の伸び競ひ合ふ菖蒲の芽 橋本幹夫  
 いくばくの墓石一望山笑ふ 池下よし子  
 子育てもそろそろ終へし桜の木 山口美琴  
 春雪の水と成り行く速さかな 石川順一  
 咲きみちて玄関狭し桜草 渡邊春生  
 麦踏んで畝のかなたの夕日かな 田村公平  
 沈丁の香りをつれて風抜ける 後藤允孝  
 純白の辛夷傷めて風去りぬ 筒井省司

互選一〇句

山口美琴選

春の川渡る浅瀬の石伝ひ 森戸しゆじ  
 春の闇瀬音たよりの峡の道 木村宏一  
 県境の村の廃れて雪解川 石崎そうびん  
 球春や誰に有利の浜つ風 橋本幹夫  
 うるうると春満月のいま天心 池下よし子  
 小さな掌に四葉のクローバ見せに来る 清水恵山  
 そこかしこ沈丁香る住宅地 筒井省二  
 啓蟄のグラウンド均す野球の子 田村公平  
 燕来る砲門今も海を向き 渡邊春生  
 引く波の渚に拾ふさくら貝 後藤允孝

互選一〇句

木村宏一選

卒業やよどまざ校歌うたひ切る 森戸しゆじ  
 県境の村の廃れて雪解川 石崎そうびん  
 北窓を開けて紫煙を野に放つ 橋本幹夫  
 いかなごや路地に醬の匂ひ立つ 池下よし子  
 暖かや心の扉開けてみる 山口美琴  
 豊作の音の聞ゆる種袋 清水恵山  
 純白の辛夷傷めて風去りぬ 筒井省司  
 麦踏んで畝のかなたの夕日かな 田村公平  
 引く波の渚に拾ふさくら貝 後藤允孝  
 遅しく回る水車や春の水 瀬尾睦夫

インターネット俳句 清月  
 第176号  
 平成27年3月中の出句から

発行  
 平成27年4月20日

主宰 兼 編集  
 野田ゆたか

発行所  
 枚方市 大阪清月庵

清月俳句会のホームページ  
<https://haiku575.info/seigetukai/home/homu.htm>